

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第27回皇后盃 全日本女子柔道選手権大会

◀ 皇后盃を手にする山部佳苗



第56回 全日本銃剣道優勝大会

▶ 一般第1部優勝＝北海道





決勝＝山部（右）は大外刈で杉本から技有を奪う

第27回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

山部が女子柔道日本一



準決勝＝朝比奈を払腰で降した山部（上）



4 回戦＝僅差で田知本を破る

山部佳苗、皇后盃までの軌跡

2 回戦	○払 腰（2 分 25 秒）	滝川真央
3 回戦	○大外刈（0 分 45 秒）	稲森奈見
4 回戦	○判 定（6 分 00 秒）	田知本愛
準決勝	○払 腰（1 分 16 秒）	朝比奈沙羅
決 勝	○優勢勝（6 分 00 秒）	杉本美香

◆1～3 回戦

女子柔道日本一を決める第27回皇后盃全日本女子柔道選手権大会は4月15日、横浜文化体育館で行われた。試合は杉本美香（推薦・コマツ）、田知本愛（関東・ALSOK）といった強豪選手を破った山部佳苗（関東・山梨学院大）が初優勝を飾った。大会には34名（欠場者1名を含む）が出場し、トーナメント戦で争われた。試合は国際柔道連盟試合審判規定で行われ、時間は6分、時間内に勝敗が決しない場合は旗判定をもって決した。

昨年の選手権者、杉本美香（推薦・コマツ）は初戦の2回戦で、濱田尚里（関東・山梨学院大）を寝技で沈めると、3回戦は吉村静織（九州・三井住友海上）の内股を小外掛に返して8強入りを果たした。市橋寿々華（近畿・大阪府警）は2、3回戦ともに寝技で1分とかからずに一本勝して、4回戦へと駒を進めた。

70 kg級の上野巴恵（北海道・三井住友海上）は初戦（2回戦）で菊池舞美（東北・仙台大柔道クラブ）を



投の形＝赤坂洋輔五段（取）・若菜大介五段（受）



柔の形＝今立篤子女子六段（取）・齋院志津子女子五段（受）



会場となった横浜文化体育館



開会式



皇后盃

降すと、3回戦で谷村美咲（東京・帝京科学大）と対戦した。上野は谷村に足技で技有を奪われると、そのまま横四方に抑え込まれて合技で一本負した。

実績のある立山真衣（関東・フォリーフ）は、初戦の2回戦で高校生の藤原恵美（東海・大成高）を破る。3回戦では78kg級の岡村智美（東京・コマツ）と対戦した。岡村が攻め続ける中、立山が好機をもらえて内股に入って技有を奪う。なおも攻め続ける岡村だったがポイントにはならず、立山がベスト8進出を決めた。

昨年準優勝の萩原久美子（推薦・兵庫県警）は初戦（2回戦）で烏帽子美久（東京・東海大）と対戦し、崩上四方固で抑え込まれて敗れた。その烏帽子が3回戦も勝って、4回戦へ勝ち進んだ。

今年高校に入学した朝比奈沙羅（東京・渋谷教育学園渋谷高）は初出場ながら、初戦の2回戦、開始1分に払巻込で一本勝すると、3回戦も柴田まどか（北信越・新潟県警）を開始2分、崩袈裟固で沈め、圧巻の柔道で8強に名乗りを上げた。

昨年の学生王者、山部佳苗（関東・



2 回戦＝山部（左）が滝川に払腰で一本勝



3 回戦＝田知本（左）が大野に払腰で一本勝



4 回戦＝杉本（奥）が市橋を破る

順当に実力者が勝ち上がった



3 回戦＝杉本（上）が吉村に小外掛で一本勝

◆ 4 回戦

杉本、払腰一閃

杉本美香 ○払腰 市橋寿々華
杉本は自分の形を作ると、市橋の

山梨学院大）の動きがよく、初戦の2回戦で滝川真央（東海・富士市立高）を払腰で降すと、3回戦では開始直後に稲森奈見（九州・三井住友海上）から豪快な大外刈で一本を奪って4回戦へ。
田知本愛（関東・ALSOK）は、初戦を勝って3回戦、70 kg級の大野陽子（近畿・コマツ）を払腰で降し、危なげなくベスト8入りした。

攻撃を冷静に捌いて好機を窺う。市橋が小外に飛ばした右足を降ろして揃った瞬間を狙って、杉本がすかさず払腰。市橋の体が一回転して、杉本の一本勝が宣された。

僅差の接戦を制した立山

立山真衣 ●判定 谷村美咲

序盤から谷村が積極的に仕掛けていく。しかし、立山はこれを捌いて崩れない。逆に要所所で立山の足技に谷村がぐらつく場面も見られる。両者ポイントのないまま、時間となり、旗判定は2―1で立山が勝利した。

逆転勝利で準決勝へ

朝比奈沙羅 ○総合勝 烏帽子美久

序盤、烏帽子が左内股から右背負投への連絡技で朝比奈の126 kgの巨体を担ぐと、朝比奈は堪らず横から落ちて有効となる。ポイントを取られた朝比奈は猛然と烏帽子に襲いかかる。技の出せない烏帽子に指導が3つくと、最後は朝比奈の小外刈が決まって総合勝した。



準決勝＝杉本（右）は判定で立山を破って決勝へ



4 回戦＝朝比奈（右）が鳥帽子から技有を奪う



4 回戦＝山部（右）と田知本は互いに譲らぬ試合に

田知本、無念の敗退

山部佳苗 ○判定 田知本愛

激しい組手争いを繰り広げる両者だが、なかなか得意の形に持ち込めない。先に田知本に指導がつくが、田知本が攻勢に出ると山部にも指導がつく。ポイントに動きのないまま、判定に持ち越され、2―1で山部が田知本を降した。

◆準決勝

技が出ず、判定で杉本

杉本美香 ○判定 立山真衣

両者、組手争いに終始し、有効な技がなかなか出ない。自分の組手が作れないため、足を出しても有効な技にならず、ポイントが動かない。終盤は立山が、強引に杉本の釣手を振り払う場面が多く見られた。そのまま旗判定となり、3―0で杉本が昨年に続いて決勝の舞台へ。

期待の大型新人が力尽きる

山部佳苗 ○払腰 朝比奈沙羅

山部は初めから朝比奈の後襟を持

ち、上体を押さえつける。朝比奈が強引に右大外刈に出ると、山部は狙っていたように刈り足を透かし、払腰に返して見事な一本。山部が初めての決勝進出を決めた。

◆決勝

山部、杉本を降して優勝

山部佳苗 ○優勢勝 杉本美香

初めての決勝にも臆さず、山部が積極的に技を出して、大内刈で杉本を崩す。杉本は不用意に場外に出て指導がつく。中盤、山部が遠間から大外刈に飛び込むと、杉本は堪らず倒れて技有。山部はそのまま袈裟固に押え込んだが、これは不十分で7秒で解けた。

仕切り直して、杉本も技を出していくが、手足がばらばらで山部は崩れない。追い打ちをかけるように杉本に片襟の指導がつき、ポイント差は開くばかり。山部も再び大外を狙っていくが、これは杉本が警戒していた。焦って攻める杉本は効果ある技を出すことができず時間となり連覇はならず。大学生の山部が皇后盃を手中に収めた。

花の女子高生が4名出場

今大会の台風の目となった朝比奈沙羅（渋谷教育学園渋谷）は今年4月に高校入学したばかりの15歳。1年生ながらすでに超高校級で、3位入賞は圧巻。他にも超級の滝川真央（富士市立）、藤原恵美（大成）、さらに63kg級の津金恵（松商学園）の計4名が地区予選を勝ち上がって出場を果たした。全員初出場ということで話を聞いてみた。

●朝比奈沙羅選手（東京・高1）

「大きな目標はメダルでした。今回の結果に気を抜かず頑張ります」
多くの報道陣に囲まれても笑顔を



高校生ながら3位入賞の朝比奈（右）

浮かべ、堂々とした受け答え。試合も緊張しなかったのだろうか。

「緊張してアップで動きすぎました（笑）。でもそれが試合ではいい結果につながったのかもしれない」

目指す一本柔道的一端を出せたと語る朝比奈。最後に我々を驚かせた。「力を十分に出せば、強いことがわかったので、次は優勝したいです」わかって言ってるのか、違うのか、どちらにしても、心身ともに大物であることは間違いなさそうだ。

●滝川真央選手（東海・高2）

「強かった……」
優勝した山部に初戦で敗れた滝川の第一声である。



山部と組手争いをする滝川（左）

「大学生だから力も強いし、捌けませんでした。自分の柔道ができたら思っていたけど、あんまり……」

将来は五輪に出たいと語る滝川。ぜひ頑張つてほしい。

●藤原恵美選手（東海・高3）

初戦で同じ高校生の津金を降し、2回戦で立山に敗れた。

「技はかけていったのですが、全然通用しませんでした。力が強くて、押し返せなかったです」

払腰、一本背負投を得意技に挙げる藤原の目標は杉本だ。杉本の柔道を見て参考にしていくという。

「柔道スタイルや技、キアラも好きです。将来は日本一になりたいです」

●津金恵選手（北信越・高2）

初戦で藤原に敗れた。63kg級ながら動きがよく、判定まで持ち込んだ。「できることをやりましたのですが、あまりできませんでした」

試合では何度も内股を試みた。「内股が得意なんですけど、ちょっと重かったです（笑）」

かわいい笑顔で語ってくれたが、今後のことを聞くと表情が一変。



初戦で高校生対決となった（左・藤原、右・津金）

「力負けないように組手とパワーの強化ですね。まずは日本一、今年のインターハイから取ります」
あこがれの選手は谷本歩実氏らしい。氏のような切れる技で世界を舞台に活躍してほしい。



●優勝Ⅱ山部佳苗選手（関東）

今年の女子柔道日本一には山部が輝いた。それも日本女子重量級を代表する杉本、田知本をそれぞれ降して、である。

「信じられない気持ちです」

今大会では序盤から積極的に仕掛ける山部の姿が印象に残る。その結果が2、3回戦の投技での一本勝である。

「以前は相手の技に入ってから、と考えていましたが、今は自分から攻めるようになりました」

4回戦の田知本戦は楽な試合ではなかったが、両襟を取って攻めてくる田知本の腕を引き手で制して、技を封じた。準決勝は超高校級の朝比奈を寄せ付けずに完勝。

決勝は自身が目標とする杉本との対戦だった。杉本には過去、グランドスラム東京で勝っている。「特に対策を考えていたわけではありません。体が勝手に動きました。決勝は無我夢中だったのであまり覚えていないんです」

山部は柔道経験のある父に誘われて、6歳の頃から地元北海道の町道場で柔道を始めた。柔道の他

に水泳教室にも通うスポーツ少女だった。

小学6年生からは柔道一筋で、全国中学生大会で3位、全日本ジュニア連覇。大学は山梨学院大へ。

「大学に入ってから高校までとメニューが違いましたし、自然に力がついたのだと思います」

大学入学と同時に本大会に出場し続けており、昨年3位入賞を果たして実力を見せた。

「昨年入賞して、優勝を目指せると思いました。とにかく皇后盃で勝ちたいという気持ちが強くありました」

昨年は学生選手権優勝、講道館杯準優勝の結果を残したが、冬のヨーロッパ遠征のメンバーに選ばれることはなかった。その悔しさをこの場でぶつけ、頂点に立った。

「まだまだポイントを取られてからの動きが悪いなど課題は多くありますが、今回がまぐれだと言われたいように次の選抜もしっかりと勝ちたいです」

山部の今後の活躍次第では女子重量級の勢力図が大きく変わってくるだろう。

●2位Ⅱ杉本美香選手（推薦）

「今回は全体的に課題が残る試合でした。足も動いてないですし、甘いところもありました。好不調の波はあまりないように精神面を追い込んでいかなければいけません。次の選抜までにどういう練習をしていくのか、しっかり考えてやり直します。試合中は大きな声援をいただいていたのに申し訳ないです」

【大会結果】

優勝Ⅱ山部佳苗（関東）

準優勝Ⅱ杉本美香（推薦）

第3位Ⅱ朝比奈沙羅（東京）

立山真衣（関東）

第5位Ⅱ田知本愛（関東）

市橋寿々華（近畿）

烏帽子美久（東京）

谷村美咲（東京）



準優勝＝杉本美香選手（推薦）



優勝＝山部佳苗選手（関東）



第3位＝朝比奈沙羅選手（東京）



第3位＝立山真衣選手（関東）

筑波大学大学院准教授 山口 香 著

好評発売中

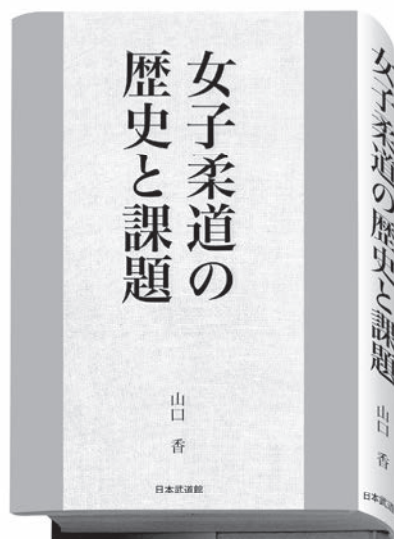
女子柔道の歴史と課題

世界トップレベルの活躍をする日本女子柔道。
これまでどのような道を辿ってきたのか、草創期から競技化そして現在までの歴史を、元メダリストである筆者の体験を踏まえて詳説する。

後半は女性の視点から、女子が抱える心身の問題、女子を指導する際の注意点、将来のキャリア形成などについて論じ、さらなる発展の道を探る。

柔道関係者・武道指導者必読の一冊。

(四六判・上製・412頁)



目次

◎第1章 女子柔道の夜明け

女子柔道の始まり
日本女性が受け継ぐ「柔の道」
広がりを見せ、試合へと向かう女子柔道
試合への道を切り開いてくれた世界の先駆者の女性たち

◎第2章 競技化への軌跡

世界への扉が開かれた第1回世界女子柔道選手権大会
世界を目指した苦心の戦い
福岡国際女子柔道選手権大会の歴史と意義
女子柔道の五輪参加

◎第3章 世界のトップへ

田村亮子の出現 —新たな時代の幕開け—
大会の新設と整う強化ライン
実業団の取り組み —三井住友海上女子柔道部と柳澤久監督—
アテネ五輪での快挙 —吉村和郎が伝えた勝利への執念—
世界選手権を振り返る

◎第4章 柔道先進国と後進国

それぞれの事情

フランスの女子柔道事情
世界の女子柔道 —イスラム圏—

◎第5章 女子選手特有の問題

柔道指導における男女の性差
先輩選手から学ぶ問題解決の糸口
セクハラを中心とした倫理規定の必要性

◎第6章 引退後のキャリア

女子柔道選手引退後のキャリア—指導者—
日本女子柔道倶楽部という試み
女子柔道選手引退後のキャリア—海 外—

◎第7章 女子柔道の未来を探る

メダリストたちからのメッセージ
歴代全日本女子監督に聞く

◎資料編

データで見る女子柔道競技の変遷
福田敬子(講道館女子九段)・梅津勝子
(講道館女子八段)講演
年表 日本女子柔道界のあゆみ



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ<http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



1部 一般

北海道が優勝

防衛省第1部は34普連が初優勝

全日本銃剣道優勝大会

第56回全日本銃剣道優勝大会は4月15日、日本武道館で行われた。昨年（第55回大会）は、東日本大震災の影響で中止となったため、2年ぶりの開催となった。

試合は、一般第1部（都道府県連盟）、一般第2部（実業団・クラブ・道場・大学等）、防衛省第1部（陸上指定）、防衛省第2部（海上・航空・第1部以外の陸上）に分かれて行われ、計191チームが出場した。

一般第1部では北海道が決勝で大分を破って優勝した。一般第2部では、ALSOKA（東京）が優勝した。防衛省第1部では、第34普通科連隊（静岡）が第42普通科連隊（熊本）を降して初優勝。防衛省第2部では日本原駐屯地（岡山）が9連覇を果たした。

一般第1部決勝副将戦＝北海道・植松（左）対大分・小山

一般第1部

24チームによるトーナメント戦で争われた。準決勝に勝ち上がったのは鹿児島、大分、第54回大会第3位の北海道、同大会優勝の神奈川の4チームとなった。

準決勝第一試合は鹿児島対大分。両者互角の戦いが続き、先鋒・中堅では鹿児島が、次鋒・副将で大分がそれぞれ判定勝ちして、2―2で大



一般第1部決勝先鋒戦＝北海道・菊川（左）対大分・宿利

将戦を迎える。大将戦も一進一退の攻防戦となり、決着のつかないまま試合終了。判定の結果、大分・姫嶋が勝って決勝進出を決めた。

一方、北海道と神奈川の対戦では、先鋒戦で神奈川が勝って先制するも、次鋒から大将まで北海道が勝利して神奈川を破った。

◇決勝

北海道 3―2 大分

先鋒 菊川 判 宿利

次鋒 山本 判 桑野

中堅 川崎 判 小田

副将 植松 上下―上 小山

大将 村井 上―力判 姫嶋

先鋒戦は北海道・菊川対大分・宿利。互いに慎重に相手の出方をうかがいながら攻撃する。両者決め手のないまま、試合終了となり、判定の結果、旗3本揃った菊川の勝ち。

次鋒戦、北海道・山本が積極的に大分・桑野を攻めるも、有効な突きとはならない。判定となり、2―1で山本が2勝目をあげた。

中堅戦は激しい攻防戦となり、互いに一本も取らせず、判定で大分・小田が北海道・川崎を破って2―1

とする。

副将戦、北海道の高校生・植松が果敢に大分・小山を攻め立てるが、小山は植松が飛び込んでくるのに合わせて、冷静に上脰を決める。植松は一本取られた後も攻撃の手を緩めず、下脰、上脰を連取して逆転。北海道の優勝が決まった。

なお、大将戦では北海道・村井が上脰で先制するも、大分・姫嶋が肩で取り返して判定に持ち込み、姫嶋の勝ちとなった。

◎北海道・塩谷昭次郎監督

「優勝するとは思っていませんでした。選手たちが自分の力を信じて一生懸命戦ったということが、勝利に繋がったのではないかと思います。また、今回は国体で優勝した高校生の選手が2名加わったので、彼らが大きな戦力となり、優勝することができました。若い人の力を伸ばすことが、今後の発展にも繋がっていくと思います」

◎北海道・川崎喜一選手、植松正平

選手

2人は旭川実業高校2年生。本大会には初出場だという。

川崎喜一選手「大人との試合は緊張しました。このような大会でも、もっと自分の銃剣道ができるように頑張りたいです。7月の高校生大会と10月の国体で連覇することが、今の目標です」

植松正平選手「いつもは高校生との試合ばかりなので、このような大会で社会人の方の試合を見ることができ、刺激的でとても勉強になりました。今日学んだことを、これから練習にうまく生かしていければいいと思います。高校生大会、国体も控えているので、全部の大会で優勝したいです」

一般第2部

10チームが出場。A・B2グループに分かれてリーグ戦が行われ、各リーグ上位2チームが決勝トーナメントに進んで優勝を争う。

準決勝第一試合は、Aリーグ1位の防衛大A（神奈川）対Bリーグ2位のALSOKA（東京）。ALSOKAが先鋒、中堅と2勝して決勝に進む。

準決勝第2試合の防衛大C（神奈



一般第2部優勝＝ALSOKA



一般第2部決勝大将戦＝ALSOKA・堀江（右）対防衛大C・橋口

川）対ALSOKグループでは、中堅、大将で防衛大が勝って決勝へ。

◇決勝

ALSOKA 2―1 防衛大C

先鋒 三浦 上上― 牧田

中堅 松浦 上―上下 中根

大将 堀江 下上―上 橋口

先鋒戦では、三浦が牧田に上胴を2本決めてALSOKAが先制する。すると中堅戦で防衛大・中根が上胴、下胴を奪い、1―1で大将戦を迎える。大将戦、ALSOK・堀江が下胴を先取すると、防衛大・橋口も上胴で一本取り返す。最後は堀江が上胴を奪ってチームの勝利を決めた。

防衛省第1部

65チームによるトーナメント戦で争われた。準決勝に勝ち進んだのは34普連（静岡）、14普連（石川）、42普連（熊本）、50普連（高知）。

準決勝、34普連対14普連では、4―1で34普連が14普連を降した。もう一方の42普連と50普連の対戦は、4―1で42普連が勝って決勝に駒を進めた。

◇決勝

34普連 3―2 42普連

先鋒 菊地 判― 田尻

次鋒 鳥澤 上― 和久田

中堅 荻田 下上― 大石

副将 村山 上―上判 前川

大将 勝又 ―ノ上 角

先鋒戦は、34普連・菊地、42普連・田尻ともに譲らず決め手のないまま、判定にもつれこむ。その結果、

次鋒戦、34普連・鳥澤が試合開始直後、和久田に上胴を決める。その後は激しい攻防となるも、鳥澤が逃



【上】防衛省第1部決勝先鋒戦＝34普連・菊地（左）対42普連・田尻

【右】防衛省第1部決勝大将戦、42普連の角が意地を見せてノド、上胴を決める



げ切る。

中堅戦では、34 普通連・萩田が試合開始と同時に飛び出して、大石から下胴を奪う。萩田は続けて上胴を決めて2本勝ち。34 普通連が初優勝を果たした。

副将戦では34 普通連・村山、42 普通連・前川とともに上胴一本ずつを取り、判定で前川が勝ち。大将戦では42 普通連・角が勝又からノド、上胴と2本奪って勝利。42 普通連も意地を見せ、結果

は3—2となった。

◎34 普通科連隊・平尾多津彦監督
「優勝すると思っていたいなかったのが驚きました。これまでベスト8までしか上がったことがありませんでしたし、42 普通連の選手とはよく戦わせていただいているのですが、かなり負けていましたので。」

選手たちは個性が強く、普段は自由気ままなチームという雰囲気なの

ですが、今日はそれが良い方向に働いたのではないのでしょうか。自由気ままに勝ちに行き、勢い良く前に前に出ることができたのが、勝因だったと思います。これからますます練習して、連覇を目指します」

防衛省第2部

92 チームが出場してトーナメント戦で争われた。大村(長崎)、対馬(長崎)、8 連覇中の日本原(岡山)、入間(埼玉)がベスト4に勝ち残った。

準決勝では、大村が対馬を4—1で破って決勝に進み、また、日本原が入間に一本も取らせず5—0で今年も決勝進出を決めた。

◇決勝

日本原	4—1	大村
先鋒 上田	判—	黒岩
次鋒 高島	下上—下	川原
中堅 岡崎	上—	浦川
副将 藤原	上—	森田
大将 南條	上—	中島

先鋒戦の日本原・上田対大村・黒岩は、上田が判定勝ち。次鋒戦、日本原・高島が下胴を取ると、大村・川原も下胴を奪い返すが、高島が上胴で2本目を決める。

中堅戦では日本原・岡崎が上胴で一本勝ち。ここで日本原の優勝が決まる。副将戦は日本原・藤原が、大将戦は大村・中島が勝って、結果は4—1。日本原は9 連覇となった。

【大会結果】

▽一般第1部 ①北海道②大分③鹿児島、神奈川

▽一般第2部 ①ALSO KA (東京)

②防衛大学校C (神奈川) ③ALSO Kグループ (東京)、防衛大学校A (神奈川)

▽防衛省第1部 ①第34 普通科連隊

(静岡) ②第42 普通科連隊 (熊本)

③第14 普通科連隊 (石川)、第50 普通科連隊 (高知)

▽防衛省第2部 ①日本原駐屯地 (岡山)

②大村駐屯地 (長崎) ③入間基地 (埼玉)、対馬駐屯地 (長崎)



防衛省第1部優勝＝第34 普通科連隊



防衛省第2部優勝＝日本原駐屯地



日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

(B5判・236頁)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)

第1章 いざ! 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ

大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人

第3章 剣道のすすめ

森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋

第4章 弓道のすすめ

森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝

第5章 相撲のすすめ

塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男

第6章 空手道のすすめ

金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士

第7章 合気道のすすめ

多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ

合田清一／阿達美恵子／山巻哲／松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ

澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美

第10章 銃剣道のすすめ

桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之

第11章 古武道のすすめ

竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(馬術)

日本武道館の歴史



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



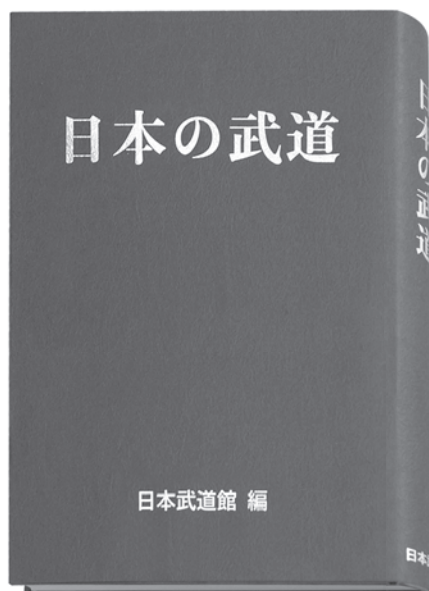
大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法などさまざまな銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!
一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!



日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



日本武道館 編

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

男子団体

東海大浦安(千葉)が初優勝

女子は、埼玉栄(埼玉)が3回目の優勝



男子団体決勝＝東海大浦安大将・ベイカー(上)が桐蔭学園大将・山本から隅落で一本を奪う

第34回全国高等学校柔道選手権大会は3月19日(個人戦)・20日(団体戦)の2日間にわたり、日本武道館で開催された。前年の33回大会は東日本大震災の影響により中止となったため、本大会は2年ぶりとなる。

団体戦・男子(勝ち抜き試合)は、東海大浦安(千葉)が桐蔭学園(神奈川)に1人残りで勝利し、念願の初優勝に輝いた。女子(点取り試合)では、埼玉栄(埼玉)が阿蘇中央(熊本)を1-0で破り、3年ぶり3回目の優勝を遂げた。また、一昨年から復活した個人戦では、男女共、体重別4階級及び無差別で争われ、高校生日本一の座を懸けた熱戦が繰り広げられた。

●団体戦

男子は全国の予選を勝ち抜いた52校、女子は48校が出場し、トーナメント方式により行われた。

男子は各チーム5名(体重無差別)による勝ち抜き試合、女子は各チーム3名(先鋒Ⅱ52kg以下、中堅Ⅱ63kg以下、大将Ⅱ無差別)による点取り試合で争われた。

○男子

準決勝は、桐蔭学園(神奈川)対天理(奈良)と、東海大浦安(千葉)対東海大相模(神奈川)が対戦した。

4回戦で前回優勝の国士館(東京)を破った天理であったが、桐蔭学園に2人残りで敗れた。東海大浦安は、強豪の東海大相模に1人残りで勝利し、初めて決勝に進出した。

▽決勝

東海大浦安 1人残り 桐蔭学園 先鋒戦、東海大浦安・女良対桐蔭学園・渡部は引き分け。次鋒戦は、東海大浦安・石神が指導2となり、桐蔭学園・岡田が優勢勝を収めた。続く試合では、逆に岡田が指導2で東海大浦安中堅のウルフに敗れた。

次のウルフ対桐蔭学園中堅・藤井との対戦は引き分けとなり、試合は副将同士の対戦となる。初めに東海大浦安・鎌田が大内刈で桐蔭学園・竹内から有効を奪い先制する。しかし、残り1分に竹内が背負投で一本勝を収めた。続く竹内対東海大浦安大将・ベイカー戦では、開始から1分半、ベイカーが大外刈を決めて一本勝利し、大将対決へと繋げた。勢い

に乗るペイカーは開始から25秒、桐蔭学園大将・山本が前に出たところに合わせて隅落を決め、一本勝で勝利。東海大浦安が初優勝を果たした。

◆東海大浦安・竹内徹監督

「待望の優勝が来ました。体が小さくても技に切れがあり、特に精神力の強いチームを育てることを心掛けました。ペイカーは調子が良かったので非常に頼もしかった。昨年の震災後は、浦安も多少被災して苦労した時期がありました。生徒たちは今、柔道が出来ることに感謝しています」

○女子

準決勝は、阿蘇中央（熊本）対松商学園（長野）と、埼玉栄（埼玉）対新田（愛媛）との対戦となった。

阿蘇中央対松商学園は、阿蘇中央の大将・梅木が払腰で一本勝し、1―0で阿蘇中央が決勝に進んだ。埼玉栄対新田は、埼玉栄中堅の安が大阪で一本勝し、1―0で埼玉栄が決勝に勝ち上がった。

▽決勝

埼玉栄 1―0 阿蘇中央

埼玉栄・犬井対阿蘇中央・飯塚の先鋒戦は、共に技が決まらず引き分



▶女子団体決勝中堅戦Ⅱ埼玉栄・安（手前）対阿蘇中央・土井
安の大内刈が有効となって優勢勝、優勝に貢献する

ける。中堅戦は、開始から30秒、阿蘇中央の土井に対して、埼玉栄・安の放った大内刈が有効となり、安が優勢勝を収めてリードした。大将戦は、阿蘇中央・梅木の攻めを埼玉栄の小針が凌いで引き分け、1―0で埼玉栄が3年ぶり3回目の優勝を果たした。

◆埼玉栄・本松好正監督

「4回戦まで行ければ優勝出来ると思って臨みました。決勝は先鋒、中堅で勝負が決まればと思っていまして、最後は大将の小針が良く凌いでくれました。本当に嬉しいです」

●個人戦

個人戦は、男女共に体重別4階級及び無差別に分かれ、各クラスに全国各都道府県の代表47名が出場し、トーナメント方式で争われた。

なお、試合時間は3分で、得点差がない場合はゴールデンスコアの延長戦（2分）を行い、それでも勝敗が決しない場合は旗判定で決した。

○男子

▽60 kg級

決勝は大島優磨（東京・国士館）と林浩平（北海道・北海）が対戦。

試合は大島の攻めを林が返す展開が続く、一進一退のまま延長戦となった。延長開始早々、大島の小内刈から右手で足を抱えて倒した技が有効となる。大島の優勝が決まった。

▽73 kg級

村上洋平（愛媛・新田）と橋口祐葵（宮崎・延岡学園）が決勝に進出。開始から1分過ぎ、防戦一方の村上是指導1を受ける。橋口は途中左膝を痛めるが、優勢のまま延長戦へ。開始から45秒、一瞬の隙に引き込んで投げた村上の引込返が技有となり、村上が優勝を手に入れた。

▽81 kg級

決勝には小原拳哉（神奈川・東海大相模）と佐藤正大（福岡・大牟田）が勝ち上がった。開始から果敢に小原が攻めるが、佐藤は凌ぎ切って、延長戦となる。延長戦でも小原が積極的に攻める。後半、佐藤も反撃を見せたが試合終了。旗判定となり、3―0で小原が優勢勝し、優勝した。

▽90 kg級

決勝はペイカー・荻秋（千葉・東海大浦安）対横田雄斗（東京・国士館）の対戦。開始から1分、ペイカーの奥襟を嫌った横田が首抜き反則を



男子 81kg級決勝＝小原(左) 対佐藤



男子 73kg級決勝＝村上(下) 対橋口
村上の引込返が技有となる



男子 60kg級決勝＝大島(左) 対林
大島が小内刈から足を抱えて有効を奪う



女子 63kg級決勝＝松本(右) 対津金
松本の大外刈が有効となる



女子 57kg級決勝＝山本(手前) 対芳田
山本が小内刈で有効を奪う



女子 52kg級決勝＝岡本(左) 対山田

して指導1となる。なおもベイカー有利の組手のまま試合が続ぎ、1分26秒、横田の放った右の大内刈を捌いて上体を捻って仕掛けたベイカーの隅落が決まって一本となる。ベイカーが優勝を決めた。

▽無差別

決勝は横山堯世(栃木・國學院大栃木)とウルファロン(千葉・東海大浦安)との対戦。横山は体格差を活かしてウルフの背中を握って攻め立てる。ウルフも負けじと対抗するが、次第に疲れが見え始める。1分53秒、横山の得意とする左払腰が決まって、横山が優勝を遂げた。

○女子

▽52 kg級

決勝は岡本理帆(静岡・藤枝順心)と山田樹(宮崎・宮崎商)との対戦。試合は岡本の勢いが山田を上回り、山田は防戦を強いられる。延長戦となり、岡本のペースで試合は展開するもポイントを奪えず試合終了。旗判定3―0で岡本が勝ち、優勝した。

▽57 kg級

決勝は山本杏(神奈川・桐蔭学園)と芳田司(福岡・敬愛)が勝ち上がった

た。開始から山本の積極的な攻めが目立ち、50秒、山本が小内刈で有効を奪う。なおも試合は山本のペースで進み、1分30秒にも、山本の左の大内刈が有効となる。そのまま試合終了となり、山本が優勝を決めた。

▽63 kg級

松本千奈津(宮崎・宮崎商)と津金恵(長野・松商学園)が決勝に進出した。開始1分、鋭く放った松本の右大外刈で津金が勢いよく横に倒れ、斜め後ろの主審は思わず一本を宣告したが、取り消されて有効となる。その後、津金も反撃するが及ばず、試合終了。松本が優勝に輝いた。

▽70 kg級

決勝は村山のどか(静岡・市立沼津)対長内香月(富山・高岡龍谷)。試合は一進一退の攻防が続いたが、徐々に長内が押す展開となり、開始2分、村山に指導1が付く。しかし、その直後、組んで体落から谷落へ変化した村山の技が見事に決まり、一本。村山が優勝を手に入れた。

▽無差別

決勝には橋本朱未(東京・淑徳)と藤原恵美(愛知・大成)が勝ち上がる。体格に勝る橋本が藤原の奥襟



男子団体戦・優勝＝東海大浦安



女子団体戦・優勝＝埼玉栄



男子無差別決勝＝横山(右) 対ウルフ
横山が払腰で一本勝する



男子90kg級決勝＝
ベイカー(手前) 対横山
ベイカーの隅落が決まる



女子無差別決勝＝橋本(右) 対藤原



女子70kg級決勝＝
村山(右) 対長内
村山が谷落で一本勝を収める

【大会結果】

を捕ってプレッシャーを掛け、攻勢に出る。50秒、組手を嫌う藤原は指導1を受け、橋本優位のまま延長戦となる。延長戦でも橋本の攻めに対

し、藤原は防戦一方となり、残り50秒、審判団が集まり、藤原に指導2が与えられ、橋本の優勢勝が決まり試合終了。橋本が優勝を果たした。

■男子団体①東海大浦安(千葉) ②桐蔭学園(神奈川) ③天理(奈良)、東海大相模(神奈川)

■女子団体①埼玉栄(埼玉) ②阿蘇中央(熊本) ③松商学園(長野)、新田(愛媛)

■男子個人

▽60kg級①大島優磨(東京・国士館) ②林浩平(北海道・北海) ③竹内文汰(大阪・東海大仰星、田中崇晃(栃木・白鷗大足利)

▽73kg級①村上洋平(愛媛・新田) ②橋口祐葵(宮崎・延岡学園) ③三浦拓海(岩手・盛岡大附、武居世悟(長野・東海大三)

▽81kg級①小原拳哉(神奈川・東海大相模) ②佐藤正大(福岡・大牟田) ③岩橋龍汰(佐賀・龍谷、金山天地(大分・柳ヶ浦)

▽90kg級①ベイカー・茉秋(千葉・東海大浦安) ②横田雄斗(東京・国士館) ③大町隆雄(福岡・大牟田、竹下恭平(鹿児島・明桜館)

▽無差別①横山克世(栃木・國學院大栃木) ②ウルフアロン(千葉・東海大浦安) ③尾原琢仁(兵庫・科学技術、佐藤和哉(静岡・静岡学園)

■女子個人

▽52kg級①岡本理帆(静岡・藤枝順心) ②山田樹(宮崎・宮崎商) ③鶴岡来雪(愛媛・新田、飯塚貴恵(熊本・阿蘇中央)

▽57kg級①山本杏(神奈川・桐蔭学園) ②芳田司(福岡・敬愛) ③平岩亜扇(愛知・同朋、原田千賀子(兵庫・夙川学院)

▽63kg級①松本千奈津(宮崎・宮崎商) ②津金恵(長野・松商学園) ③森田朝子(京都・京都学園、安沙好(埼玉・埼玉栄)

▽70kg級①村山のどか(静岡・市立沼津) ②長内香月(富山・高岡龍谷) ③佐俣優依(神奈川・三浦学苑、山中英林加(奈良・奈良育英)

▽無差別①橋本朱未(東京・淑徳) ②藤原恵美(愛知・大成) ③滝川真央(静岡・富士市立、梅木真美(熊本・阿蘇中央)

待望の 単行本化 嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。
数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの、先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

財団法人講道館図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



第1章 普及への意思

柔道史の原点
欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門
新大陸へ派遣第2号
異種格闘技に生きた前田光世
英国柔道の基礎―武道会
武道会を訪れた嘉納と高弟会田
小泉が語る英国柔道史
仏蘭西への道
メトード・カワイシとは何か
駐仏日本国大使 杉村陽太郎
続々と仏蘭西へ
海外より見た柔道―独逸通信
東洋への進出
異文化理解の容易な道

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜
嘉納逝き連盟成らず
欧州から国際柔道連盟の結成
講道館長、国際柔連会長に就任
世界柔道選手権大会開催
東京五輪招致成功
東京五輪と正式種目柔道
パリへの仇
体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進
変わり行く柔道
不易流行

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

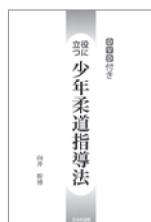
（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

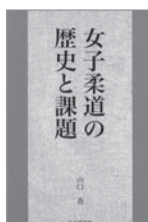


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）